

# Sustainable Development Goals

# Activity Report

2023.4～2024.5

*Nippon Access Hokkaido*

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



「心に届く、美味しさを」  
実現させる、持続可能な社会を目指して

# トップメッセージ



代表取締役社長 社長執行役員  
黒沢 忠寿

当社を取り巻く環境は、コロナ禍を通じて消費行動の変化や従業員の働き方など目まぐるしく変化しており、そうした変化やニーズに対し、経営方針テーマである「変革と挑戦」にスピード感をもって取り組んでおります。当社が今後さらに成長を続けるためには、社会的課題の解決に貢献していくことは極めて大きな要素となります。

当社は2022年11月にSDGs宣言を行い、大きく4つのテーマを選定致しました。食の安心安全、地球環境(食品ロスや気候変動)、労働環境、社会貢献とありますが、SDGsが示す社会的課題の解決に本業を通じて取り組み、社会に必要とされる、社会の役に立つ企業であり続けることが重要です。

食品卸として物流の効率化や温室効果ガス排出量削減といった「省エネ」や「食品ロス削減」はこれまで事業の一環として常に取り組んでいることですが、それは社会をより良くする取り組みとして称賛される活動だということに、改めて気付きを持つとともに、モチベーションを高くもって取り組めるようにしていきたいと考えております。

当社の企業理念である心に届く美味しさを「まもる、つなぐ、つくる」。これは、食品の安心安全をまもり、食の流通を最適につなぐ、食文化を受け継ぎ新たな価値をつくる、といった想いがあります。当社の企業理念とSDGsは親和性が高いものであると認識しております。会社がより健全に存続していくためにも、企業理念の浸透は重要です。その企業理念を浸透させ、社員一人ひとりがSDGsに対する意識を高め、世の中で必要とされる企業を目指していきたいと思っております。

今回作成したサステナビリティレポートを通じて、当社の活動をご理解いただく機会となれば幸いに存じます。これからも皆様から信頼され選ばれる北海道No.1の食品卸売企業を目指して取り組んでまいります。

## 日本アクセス北海道 SDGs 宣言

### Nippon Access Hokkaido Sustainability Policy

当社は、『SDGs』の達成にむけた取組強化するため、2022年11月1日に『SDGs宣言を行いました。』

この宣言により、組織全体で共通の課題を認識し、その課題解決に向け具体的な活動を展開することで、持続可能な社会の実現を目指します。

#### 1. 食の安全・安心

リスクの未然防止

#### 3. 労働環境

健康経営推進・ダイバーシティーへの取組

#### 2. 地球環境

食品ロス・気候変動対策

#### 4. 社会貢献

地域支援・次世代育成

# 日本アクセス北海道SDGs宣言

## 2030年までに目指す姿、目標、ゴール

### 食の安全・安心/リスクの未然防止

- ・フードチェーン全体の食品事故リスク未然防止

安全な食品を取り扱う為に必要な情報の周知・浸透。法改正、HACCP制度化を考慮した工場監査の実施



### 地球環境/食品ロス削減・気候変動対策

- ・食品廃棄物排出量 2017年度比70%削減

2017年 85t ➔ 2030年 25t

- ・温室効果ガス排出量 2013年度比46%削減

2013年 5,249t-co2 ➔ 2030年 2,834t-co2



### 労働環境/健康経営・ダイバーシティ

- ・労働環境の改善/健康経営優良法人の認定

より働きやすい、より働きがいをもてる会社の実現へ



### 社会貢献/地域支援・次世代育成

- ・地域社会に貢献する北海道No.1食品卸を目指して食を通じた社会貢献活動の推進



# 定量面のレビュー ~目標に対して現在の経過状況~ ※2024年9月時点

12 つくる責任  
つかう責任



## 地球環境／食品ロス削減

目標：食品廃棄物排出量 2017年度比70%削減

2017年 85t



2023年 29.3t

削減量 55.7t (目標) 進捗率 93.5%

13 気候変動に  
具体的な対策を



## 地球環境／気候変動対策

目標：温室効果ガス排出量 2013年度比46%削減

2013年 5,249t-co2



2023年 1,877t-co2

削減量 3,372 t-co2 、 (目標) 進捗率 140%

※エネルギー係数の変化が影響し大幅減少、今後も変動（増減）する可能性があるため、継続的な取組みを推進してまいります。



## 社会貢献／地域支援

食を通じた社会貢献活動の推進



フードバンク寄贈\_累計実績



	内容
2022年度	ドライ品_1,030C/S+225kg
2023年度	ドライ品_1,620C/S+534kg
	冷凍・チルド品_545C/S
2024年度	ドライ品_180C/S+365kg
	冷凍品_8C/S

※2022年11月のSDGs宣言から2024年9月までの実績

これらの寄付詳細としては、展示会終了後にいただくメーカー様からの協賛品や滞留商品、本社災害備蓄品の入替に伴う旧品などになります。

その他に私たちができる食を通じた社会貢献活動を模索してまいります。

# 日本アクセス北海道SDGs取組の足跡

年 月	内 容
2022年 1月	SDG s タスクの立上げ
2022年 11月	SDG s 宣言
2023年 1月	SDG s バッジの着用による啓蒙開始
2023年 6月	石狩チルドセンターで節電システムの導入、運用開始
2023年 11月	食品安全セミナー実施（22社、27名参加）
2023年 11月	社有車にEV車（2台）を導入
2023年 12月	国連WFP協会への寄付活動 （2022年トルコシリア地震/ウクライナ緊急支援、2023年パレスチナ緊急支援など）
2024年 1月	健康経営宣言
2024年 2月	パートナーシップ構築宣言
2024年 2月	展示会の展示商品をフードバンク寄贈（総量329Kg、2022年から4回目）
2024年 5月	電源車（3台）導入（BCP対策および食の安定供給対応）
2024年 5月	社有車ハイブリッド車導入完了（21台：2023年度より随時導入開始）
2024年 5月	Hokkaido海のクリーンアップ大作戦vol.4へ参加（全32名）

### ●食品安全勉強会の開催

2023年11月22日（水）『これからの時代に必要な食品安全の取組について』

※ZOOM開催  
(22社27名)

～具体的な改善活動のポイントや事例～  
講師アース環境サービス(株) 様

仕入先メーカー様向けに外部講師を招いて勉強会を開催。  
食品表示やHACCPなどテーマを設けて食品安全の知識を深めていただき  
フードチェーン全体で食品事故の未然防止に努めています。



イメージ：過去実施画像

### ●工場点検の実施

メーカー様の安全な食品製造の実現とリスクの回避  
に向けた工場点検を実施しております。

※2023年度実施件数 12件



### ●社内勉強会の実施

食品を取り扱う企業として、必要な知識の取得や社内で発生  
しうるリスクの回避について、ハンドブックの作成、社内勉  
強会の実施など、全社員を対象に啓蒙活動に取り組んでおり  
ます。





災害などの緊急時にも食の安全・安心を”まもり”、  
日々の暮らしに必要な流通を最適に”つなぐ”ために

- ✓ 軽油満タンで、1 2 時間の電源供給が可能
- ✓ 移動ができ、複数のセンターに接続する事も可能

※夏場の猛暑時には、センターのデマンドコントロール



### 国連WFP協会へ支援



国連WFP協会より感謝状をいただきました。

パレスチナ緊急支援の飢餓問題食糧支援活動を応援



### エコキャップ回収

場所	回収受領日時	個数	重量(kg)	累計個数
苗穂	2023/10/6	7,740	18.00	137,491
苗穂	2023/12/19	2,580	6.00	140,071
苗穂	2024/4/1	2,580	6.00	142,651
苗穂	2024/5/2	2,580	6.00	145,231



### フードバンクへの寄贈拡大



フードバンクを通じて児童養護施設など必要な場所に食品を寄贈する活動を積極的に進めています。

2022年8月当社展示会より2024年2月迄(4回)メーカー様より総重量960kgの食品を寄付いただきました。



札幌市社会福祉生活支援センター「フードバンク札幌」様を通じて、地域の子ども食堂や各施設支援団体へ食の支援活動を継続して実施。

## 2023年より冷凍食品の寄贈を開始

### ●各支援団体からの声



(児童養護施設)  
当日消化分のみ受け入れ  
※家庭用冷蔵庫のみ

(ホームレス支援団体)  
喜ばれた  
※保存設備無し

(ミャンマー人支援団体)  
とても喜ばれた  
※保冷設備がある



(B型作業所)  
当日消化分のみ受け入れ  
※保存できず

(就労継続支援事業所)  
喜ばれた  
※家庭用冷蔵庫のみ

(自立援助ホーム)  
とても喜ばれた  
※保冷設備がある

(障がい者就労支援事業所)  
喜ばれた  
※多少の保存は可能



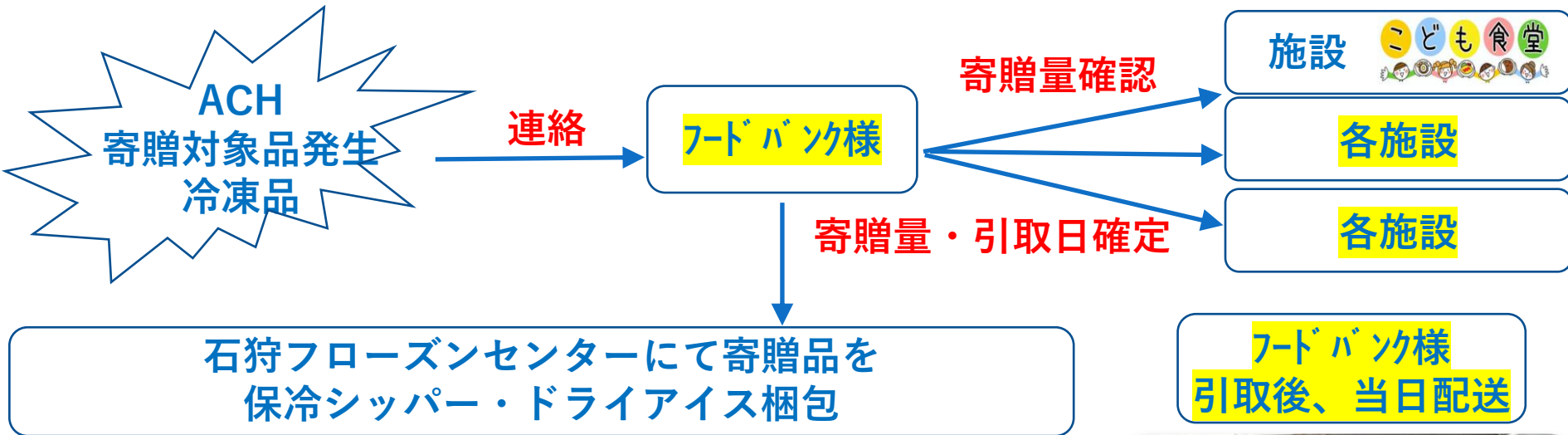
課題は一時保管場所（フードバンク団体）に冷凍庫が無い

# 社会貢献

地域社会に貢献する  
北海道No.1食品卸を目指して



2023年より冷凍品寄贈に向けた体制を構築。ドライアイスと保冷シッパーを使用することで一定時間の品質管理と当日配送を可能に。



石狩フローズンセンターにて寄贈品を  
保冷シッパー・ドライアイス梱包



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





### 海のクリーンアップ大作戦 (総勢32名)



2024年5月15日幌平橋



2024年5月18日あそびーち



2024年5月15日小樽ドリームビーチ

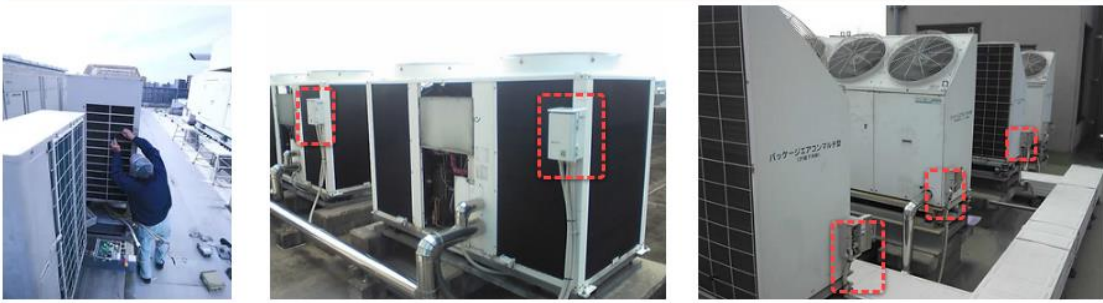
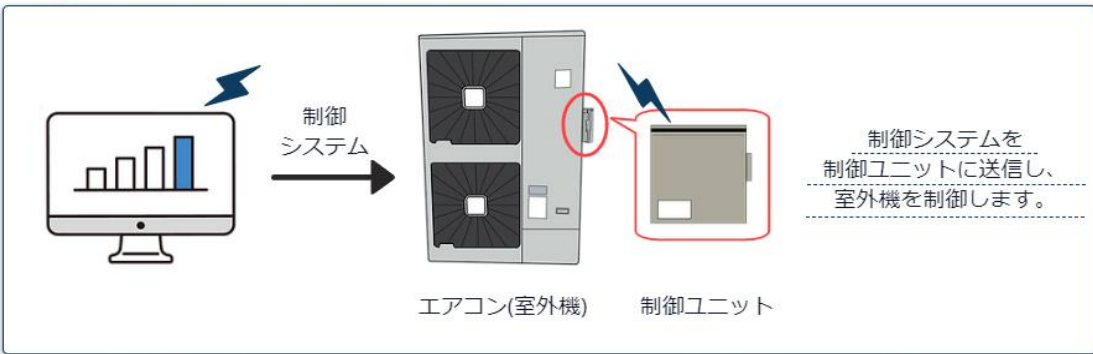


2024年5月15日望来海岸

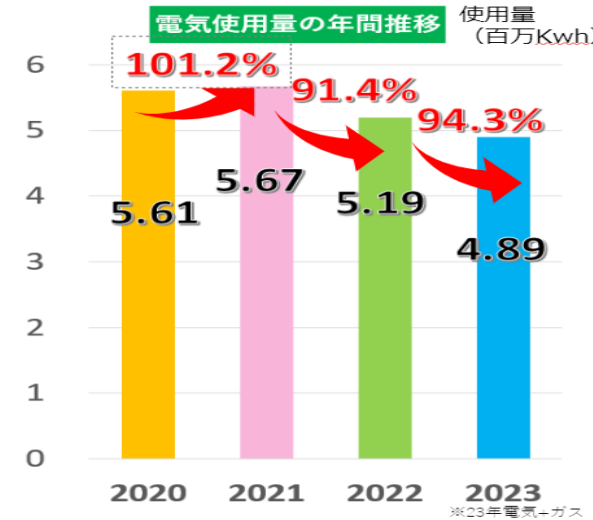
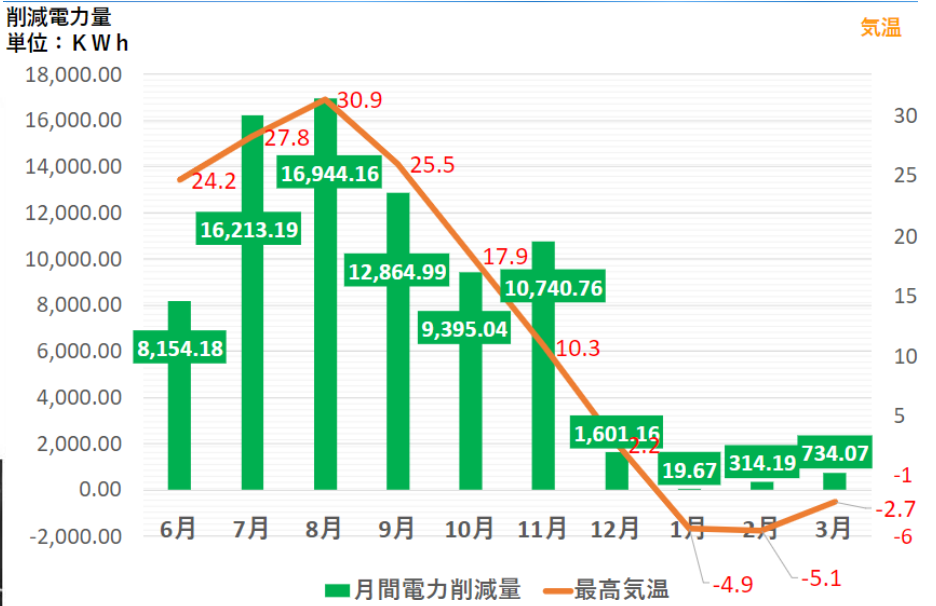




### サイクリック制御システムの仕組み

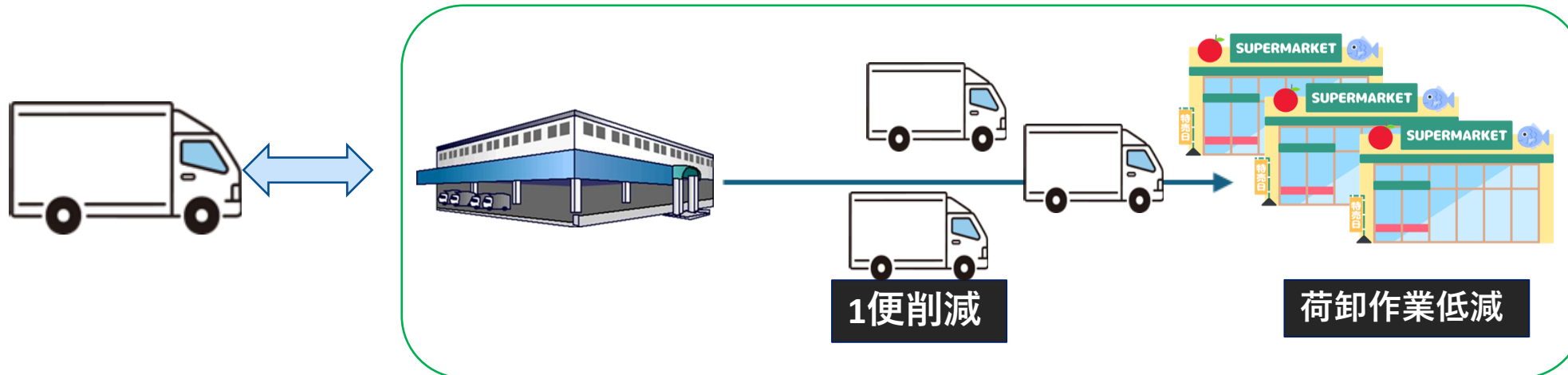


エネルギー使用量の削減を目標に、2023年6月より石狩Childセンターへ節電システムを導入しました。  
 センターの空調機・冷凍機のコンプレッサを30分毎に監視し効率的にエアコン・冷凍庫のエネルギー電気使用量およびCO2を大幅カットしていくサイクリック制御システムを導入。7月～9月の3か月間の平均で15,000kwh、想定以上である7%の削減。  
 ※冬期間は、冷凍機故障の為検証できず。





## 小売業様と物流企業様と当社の協業による物流効率化を目的に配送コース見直しを行い配送車両の削減に取り組中

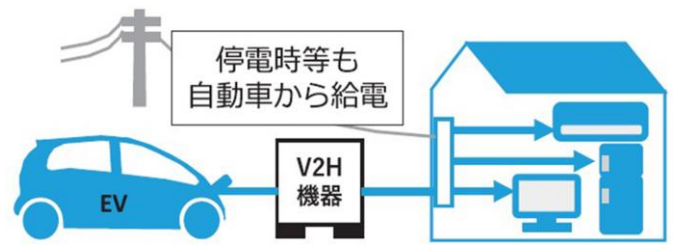


- ・積載効率の改善(26コースから25コースへ)  
配送車両1台削減  
走行距離が下がることでCO<sub>2</sub>/脱炭素削減(2023年度/年間6万4千km削減)
- ・ドライバーの労働環境の改善、パートナー企業のドライバー不足の解消
- ・荷卸し作業の業務低減
- ・伝票レス、データ化、紙代削減(米里TPL 1, 200枚/日、苗穂TPL 360枚/日)

※今後の課題はCO<sub>2</sub>換算の効果検証。



テレマティクスの導入  
アイドリングや急発進の抑制により事故防止とCO<sub>2</sub>削減を目的に全車へ導入。



2023年11月にEV自動車を2台導入し併せて停電時に備え充電器、可搬式バッテリーを整備し近郊センターにおいても使用できるよう整備。  
ハイブリット車輛も順次21台を導入。



### 健康経営宣言

当社は社員の心と身体の健康づくりに関する具体策を実施し、健康経営優良法人を目指す。誰もが能力を発揮し、活躍できる働きがいのある会社を目標に2024年1月1日に宣言をしました。

#### 日本アクセス北海道の健康経営宣言

社員ひとりひとりが心身ともに健康で、働きがいをもって働くことのできる会社になります

制定日 2024年1月1日  
代表取締役社長 社長執行役員  
黒沢 忠寿

#### 【行動指針】

- ① 会社は社員の心とからだの保持・増進のため、安全・健康・快適な職場環境をつくります
- ② 社員は一人ひとりが自らの心とからだの健康保持・増進に努めます
- ③ 「健やかな食生活を支える」「豊かな食生活を担う」ことを通し、広く北海道に貢献してまいります。



2026年度の目標達成に向けて、数値目標を設定しています。

単位：%

項目	2021	2022	2026	
	実績	実績	目標	
<b>生活習慣病予防・喫煙対策</b>				
健康診断受診率	100.0	100.0	100.0	
適正体重者率	BMI25未満	58.8	58.6	65.0
運動	1回30分以上の軽く汗をかく運動を2回以上/週、1年以上実施。	18.7	22.4	25.0
	日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施。	26.0	28.9	32.0
喫煙	非喫煙率	69.2	69.2	75.0
睡眠	睡眠で休養が十分にとれている	72.5	70.3	75.0
食事	朝食を抜くことが3回未満/週。	63.7	63.9	70.0
<b>メンタルヘルス対策</b>				
ストレスチェック受検率	94.4	92.6	—	
高ストレス者率	17.0	17.0	—	
<b>労働時間の適正化・ワークライフバランス</b>				
平均有給休暇取得率	年次有給休暇取得日数 ÷ 年次有給休暇付与日数 × 100	58.4	67.8	75.0

### ワークバランス向上の取組

ワークライフバランス向上のため、4月1日より働き方の見直しとして1日の所定労働時間を10分短縮（年間40時間30分短縮）



## 企業スローガン

心に届く、美味しさを

## ミッション

まもる。つなぐ。つくる。

## バリュー

日本アクセス北海道がさらなる成長を  
遂げるために必要な価値観



情熱



挑戦



創造

日本アクセス北海道を象徴し、  
今後さらに強化すべき価値観



誠実



尊重



感謝

**“変革と挑戦、そしてスピード”**

心に届く、美味しさを

---



ACCESS

日本アクセス北海道株式会社

〒065-8522札幌市東区苗穂町9丁目1番1号  
TEL: 011-805-3206 FAX: 011-805-3207  
経営企画部 SDGs・経営企画課

2024年10月初版